**はじめに**

ポスター作成に不慣れで、どこから着手したらよいかわからない班は、まず、このフォーマットに従って、研究成果をまとめてみましょう。

(番号)班　タイトルタイトルタイトル

宮城県●●高等学校●学年　　2100　苗字　名前　　2200　苗字　名前

2300　苗字　名前　　2400　苗字　名前　　2500　苗字　名前

　その研究を行うに至ったいきさつや背景・経緯などを記載します。

　過去に行われた研究（先行研究）の論文や資料を十分に読み，その研究を行うに至った経緯に盛り込みましょう。

　先輩の研究を引き継ぐ場合には，これまでの研究で，「何が」「どこまで」明らかになったのかどんな課題が残っているのか明記し，「どこからが」自分達の研究なのかを明確に記します。

**研究目的**

　何を明らかにしたいのか，ゴールをどこに設定するのかを明記します。

　目的はできるだけ具体的なものが良いでしょう。

**仮説**

　仮説がないと，ただの「実験ショー」「調べ学習」になってしまいます。背景やこれまでの先行研究を踏まえて，自分はどのような見通しを持っているのかを記しましょう。

　基本的には「～なので」「～ならば」「～になる」という形式で仮説を述べます。

　先輩の研究や，自分が前回取り組んだ研究内容，文献などを調べ，できるだけこれまでの実績や先行研究・調査を踏まえることが大切です。

　ただ「何となくそう思う」では仮説として成立しません。

**研究方法（調査方法）**

自分が立てた「仮説」が真実なのか，そうでないのか，を科学的に証明するための，検証方法を記載します。

 観察・実験で得られた結果が，客観的で信頼できることを証明できるようにしましょう。

　どのような条件，装置，器具，薬品，期間，回数なども詳細に記載すると，研究内容が伝わりやすくなります。

　観察・実験の様子など，画像として保存した場合にはその画像があると，視覚的に伝えることができるでしょう。

**結果**

　どのような結果が得られたのか，データや資料をもとにしてまとめます。図，表，グラフで表せるものは，次の点に注意してまとめましょう。

　➊グラフの縦軸と横軸には必ず単位をつけます。

　❷色別にする場合にはその色が何を表すのか「凡例」を示しましょう。

　結果ですので，自分の主観や考えは，あまり含めない方がいいでしょう。また，条件が途中で変わってしまった場合や，データに欠損（データがとれなかった範囲）があるような場合には，そのことも明記します。

**考察**

　「仮説」に対してどのような「結果」が得られ，その結果をどう解釈するのか，仮説の検証結果が考察です。

　「～だった」など事実の羅列だけで，「結果」と「考察」の区別がつきにくいまとめにならないように注意が必要です。

　考察は「結果が～だったことから●●の可能性が高い」「～という結果だったので，△△だと考える」という表現になります。

　また，期待と異なる結果が得られた，失敗した，想定外の結果だった場合も，実験・観察の状況を振り返り，その原因や，要因を明記しましょう。「上手くいかなかった」で終わらずに，しっかり向き合い，その原因を考え，改善策を考えることも立派な研究です。

　そのためにも，記録は大切です。細かなこともできるだけ記録を残しましょう。カメラで撮影しておくことも有効です。

　語尾に注意が必要です。「である」と断言していいのか，「可能性が高い」のか，「～の可能性がある」のか，「ウソ」にならないよう，分からないことは分からないと，明言しましょう。

**成果と課題**

　結果と考察を踏まえ，何がどこまで明らかになったといえるのか，また，更に研究を発展させるにはどうすべきか，研究の成果と，残された課題，新たに生じた疑問などを記載します。

　実際の発表会でもよくあることですが，課題が分かりやすくまとめられていれば，聴講者から思わぬヒントやアドバイスをもらえたり，新しいつながりが生まれ，研究が大きく前進したりします。

　研究によって生まれた課題に対して，さらに新たに仮説を立て，検証し，さらに新たな成果が得られる…これこそが研究の醍醐味ともいえます。

　課題が明確で，探究しがいのある研究であれば，後輩がさらに発展させてくれる場合もあります。謙虚にかつ，前向きに，分かりやすく研究を振り返りましょう。

**謝辞**

　学校の先生以外に，研究について相談や指導して下さった方がいれば，所属と氏名を記載します。

　敬語と同じで，聴講者からすれば，学校の先生は身内ですので，通常，謝辞には入れません。

**参考文献**

　参考にした文献を記載します。インターネットからの情報の場合，「サイト名」と「URL」を記載します。

　Wikipediaなど，不特定多数が編集できるサイトの情報を，研究の参考にするのは避けましょう。